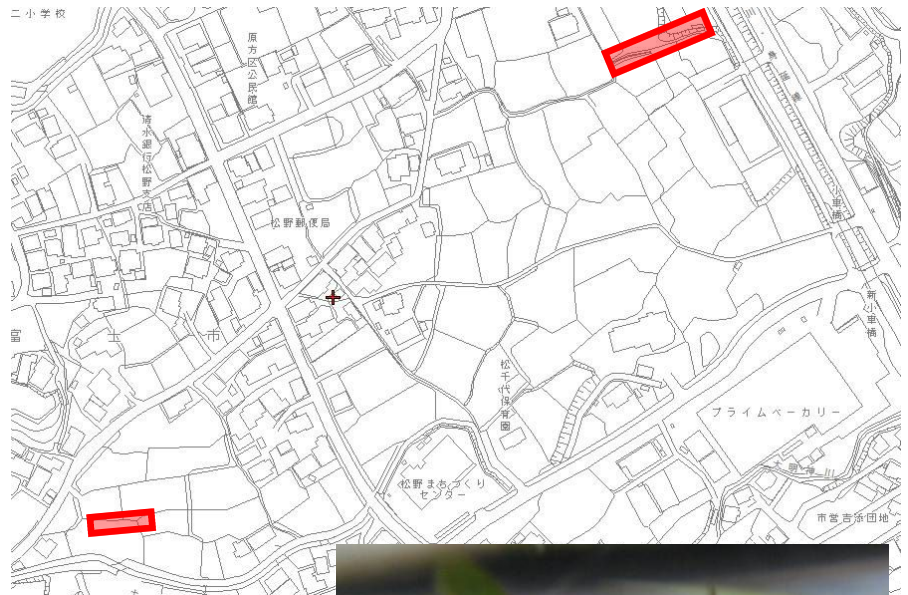


富士市自然環境マップ整備事業 キャンペーン調査講習会 「田んぼの生き物調査」を実施しました。

昔はよく見られた田んぼ周辺の身近な生き物が、現在はその数を急激に減らしています。

第2回キャンペーン調査では、東部浄化センター周辺で田んぼの生き物調査を実施し、在来種のメダカやタニシが外来種のカダヤシやスクミリンゴガイに追いやられている現状が明らかにされました。外来種以外にも、圃場整備や開発などにより、トノサマガエルやメダカ、ドジョウ、フナ、ミスカマキリなどの田んぼの生き物のハビタットが減少・悪化し、個体数の減少が危惧されています。

8月5日（日）に実施し、約30名の市民の方に参加していただきました。2班に分かれ、田んぼ周辺の水路で生き物調査を行いました。



↑生き物を捕っている様子

タイコウチ→



調査結果

- 両生類：アカハライモリ、トノサマガエル、ツチガエル、ヌマガエル
- 魚類：ドジョウ
- 甲殻類：アメリカザリガニ、サワガニ
- 貝類：マシジミ、マルタニシ、カワニナ
- 昆虫類：タイコウチ、ヒメガムシ、ハイイロゲンゴロウ、オケラ

トノサマガエル、ツチガエル、タイコウチは、富士市自然環境マップの調査の中では、富士川町側でのみ確認されました。